

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 7 月 4 日現在

機関番号：24701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25460774

研究課題名(和文)日本の自殺希少地域における自殺予防因子の研究

研究課題名(英文) Study of protective factors for suicide in the areas with rare suicide incidence in japan

研究代表者

岡 檀 (OKA, MAYUMI)

和歌山県立医科大学・保健看護学部・講師

研究者番号：10649247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、自殺に影響する様々な社会的要因のうち、人の生活基盤であるコミュニティの特性に着目し、特に自殺「希少」地域における自殺予防因子を明らかにすることで、自殺予防対策への示唆を得ようとするものである。徳島、青森、京都、奈良の4県17町村において、現地調査を行い、住民約5,300名を対象とした質問紙調査の結果、自殺希少地域では、異分子への寛容、人物本位の他者評価、適切な援助希求、ゆるやかな紐帯といった要素が、自殺多発地域よりも強く現れていた。こうした要素は、近代的な「自殺対策」の所産ではなく、数百年を遡る歴史の中で培われてきたことも明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：Of the various social factors that contribute to suicide, this research focuses on the characteristics of communities, which are a base of living for people. Through this research we will strive to gain clues about how to prevent suicide by making clear the factors that contribute to suicide prevention in areas where suicide is rare. We carried out local investigations using a survey that targeted 5,300 residents in a total of 17 cities and towns in 4 prefectures - Tokushima, Aomori, Kyoto and Nara. In the areas where suicide is rare, factors such as openness towards outsiders, the tendency to evaluate others by their character, the appropriate degree of help-seeking, and loose human connections were more apparent than in regions where suicide occurs frequently. It has become clear that such factors do not derive from modern-day efforts to prevent suicide but are rather factors that has been cultivated over the course of a few hundred years.

研究分野：健康社会学

キーワード：コミュニティ 自殺希少地域 自殺予防因子 ソーシャル・キャピタル 環境

1. 研究開始当初の背景

日本は自殺の多い国である。近年は下降傾向にあるとはいえ、年間の自殺者数は交通事故死者数の約6倍であり、自殺予防は国家が取り組むべき重要課題のひとつである。

2. 研究の目的

本研究は、自殺に影響する様々な社会的要因のうち、人の生活基盤であるコミュニティの特性に着目し、特に自殺「希少」地域における自殺予防因子を明らかにすることで、自殺予防対策への示唆を得ようとするものである。自殺「希少」地域と自殺「多発」地域を対象に詳細なフィールド調査を行い、自殺の危険を抑制する要素(=自殺予防因子)、危険を高める要素(=自殺危険因子)の抽出を目指す。

3. 研究の方法

自殺対策を検討する際、47都道府県別の自殺統計が参照されることが多いが、同一の自治体内で自殺率の大きな地域差が生じている場合がある。青森県、京都府、奈良県、和歌山県、徳島県の1府4県について、過去30年間の市区町村別自殺統計を基に自殺率の地域差を明らかにした。また、GIS (Geographic Information System、地理情報システム)を用いて、地域差の視覚化を行って、関係者間で情報を共有化した。

京都府の自殺希少地域である旧加悦町と周辺の自殺多発地域、また、(2)奈良県の自殺希少地域である旧菟田野町と周辺の自殺多発地域を対象として、調査を実施した。(1)(2)両地域において、住民および関係者らへのインタビュー、住民約1,400名を対象とした質問紙調査を実施し、自殺希少地域のコミュニティに共通する要素の抽出を行なった。

GIS(地理情報システム)を用いて、自殺率と地理的特性との関係を特定する資料を

作製した。これまでに調査を行った徳島、青森、京都、奈良の4県17町村での分析結果を統合し、解析を行った。

4. 研究成果

比較的自殺率が低いとされている近畿の府県や四国の徳島県において、自殺率の地域差が見られた。特に徳島県では、全国における「自殺“最”希少地域」のひとつと「自殺“最”多発地域」のひとつが混在していた。他方、高自殺率である青森県では、自殺率の高い市町村が東部に集中し、最も自殺率の高い町と低い町との間に大きな格差があることが明らかとなった。市町村の約4分の1は自殺率全国平均値を下回っており、残る4分の3が県の自殺率を上昇させていた。

徳島、青森、京都、奈良の4県17町村の住民約5,300名を対象とした質問紙調査の結果、自殺希少地域では、異分子への寛容、人物本位の他者評価、適切な援助希求、ゆるやかな紐帯といった要素が、自殺多発地域よりも強く現れていた。こうしたコミュニティ特性について学際的な議論を行うことを目的に、社会学、健康行動科学、土木学、都市工学などを専門分野とする研究者が、自殺希少地域である徳島県旧海部町(現海陽町)に集まり、町内の視察や住民との交流を行った。

先に挙げた、自殺希少地域に共通して強く現れる要素は、いわゆる“自殺予防”の所産ではない。短期の損得にとらわれず、合理的に行動し共存するという理念がコミュニティにおいて根づいており、住民らは成長の過程で、そうした行動様式を無意識に吸収していくと考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9件)

1. 岡檀、ゆるやかにつながる生き方、
こころの健康シリーズ 「21世紀
のメンタルヘルス」No.5、公益財団
法人日本精神衛生会、2017
 2. 岡檀、ポジティブ・デビエンスの視
点を取り入れた自殺予防研究、月刊
公衆衛生、p184-189、第81巻1号、
2017
 3. 岡檀、コミュニティの紐帯とオーブ
ンダイアログ、ナラティブとケア、
p84-89、第8号、2017
 4. 岡檀、久保田貴文、椿広計、山内慶
太、有田幹雄、和歌山県の地理的特
性と自殺率の関係：地理情報システ
ムによる可視化と地域差を表す指
標の検討、日本公衆衛生雑誌、
p36-41、第64巻1号、2017
 5. 岡檀、コミュニティにおける自殺予
防因子を考える—自殺希少地域の研
究から— .精神科治療学、P375-380、
第30巻3,4号、2015
 6. 岡檀、反町吉秀、山内慶太、自殺希
少地域・青森県旧平舘村の地域特性
に関する研究、日本社会精神医学会
雑誌、第24巻2号、p112-123、2015
 7. Mayumi Oka, Takafumi Kubota,
Hiroe Tsubaki, Keita Yamauchi,
Analysis of the impact of
geographical characteristics on
the suicide rate and visualization
of the result by GIS (Geographic
Information System). Vol.69:
375-382, Psychiatry and Clinical
Neurosciences, 2015
 8. 岡檀、久保田貴文、椿広計、山内慶
太、日本の自殺率上昇期における地
域格差に関する考察—1973年
~2002年全国市区町村自殺統計を
用いて—、厚生学の指標、第61巻8
号、p8-13、2014
 9. M. Oka, Social ecology and
suicide; Analysis of topographic
and climatic characteristics in
areas with low suicide incidence.
Vol.57, 65-81, PSYCHOLOGIA,
2014
- 〔学会発表〕(計 32件)
1. M. Oka, Protective Factors for
Suicide That are Common
Across Areas With Low Suicide
Incidence, International
Association of Gerontology and
Geriatrics, 2017
 2. M. Oka, Protective factors for
suicide found in the area with
rare suicide incidence in Japan,
Symposium: Protective factors,
suicide risks, and intervention
with older adults, World
Congress of the International
Association for Suicide
Prevention, 2017
 3. 岡檀、道草は必須、脱線はチャンス
日本で最も自殺が少ない町で
の4年間のフィールドワークか
ら、日本コミュニティ心理学会第
20回記念大会、2017
 4. 岡檀、椿広計、山内慶太、介護負担
が増える要因の探索；社会生活基
本調査・生活時間編を用いての検
討、第36回日本社会精神医学会、
2017
 5. 岡檀、生き心地の良さとは何か 日
本で“もっとも”自殺の少ない町
を調査して、広島大学マネジメ
ント学会 地域経済・経営シンポ
ジウム、2017
 6. 岡檀、椿広計、マイクロデータ分析の
事例紹介～介護に関わる生活時

- 間の分析～、統計マイクロデータの利活用実験（総務省統計局、独立行政法人統計センター）、2016
7. 岡檀、自殺希少地域における自殺予防因子の研究、社会政策学会、シンポジウム「ソーシャル・キャピタル研究における異分野間の学際的知見の共有」、2016
 8. 岡檀、自殺希少地域における自殺予防因子の研究、JAGES（日本老年学的評価研究プロジェクト）研究会、2016
 9. 岡檀、山内慶太、自殺希少地域・青森県旧平舘村のコミュニティ特性の研究、統計数理研究所リスク解析戦略研究センター 第5回自殺リスクに関する研究会、2016
 10. 岡檀、久保田貴文、椿広計、山内慶太、有田幹雄、地域の自殺予防対策に資するデータ利用の検討；地理情報システムによる可視化、第112回日本精神神経学会、2016
 11. M. Oka, Elderly Suicide in Japan; Comparison of areas with high and rare suicide incidence. International Association for Suicide Prevention. 2016
 12. 岡檀、若年自殺増加の背景にある社会的状況とは一現象理解の糸口を探るー、日本心理臨床学会第34回秋季大会、2015
 13. 岡檀、いのちを守る 日本で最も自殺の少ない町を調査して。第9回医療事故・紛争対応研究会、2015
 14. 岡檀、行動変容のためのポジティブ・デビエンス：成果と可能性、東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学公開セミナー、2015
 15. M. Oka, M. Kaneta, M. Yamamoto, K. Ito, N. Miyai, M. Utsumi, M. Shiba, M. Arita , Why Does Wakayama Prefecture Have the Highest Rate of Hypertension in Japan?—Consideration on Exercise Incorporated into Everyday Life—. European Society of Hypertension, 2015
 16. M. Oka, Living environment and health; (1)suicide ,(2)hypertension. Transdisciplinary Research Integration Center. International Workshop on Information Systems for Social Innovation, 2015
 17. 岡檀、山内慶太、自殺希少地域に共通する自殺予防因子の研究 奈良県旧菟田野町における調査結果と先行研究との比較 . 第34回日本社会精神医学会、2015
 18. 岡檀、協調社会の実現にむけて：まちづくりからの貢献可能性、第50回日本都市計画学会、2015
 19. M. Oka, Consideration on resilience in the community with lowest suicide rate in Japan .UN World Conference on Disaster Reduction, 2015
 20. M. Oka, K. Yamauchi, Study on the areas with low suicide incidence in Kyoto; standardized mortality ratio excerpted from Japanese municipal suicide statistics from 1973 to 2002. WPA Section on Epidemiology and Public

- Health, 2014
21. M. Oka, Consideration on geographical characteristics of the areas with rare suicide incidence in Japan. Transdisciplinary Research Integration Center. International Workshop on Information Systems for Social Innovation, 2014
 22. M. Oka, How can we prevent the diseases in keeping with the characteristics of each community? Study on the social capital and health; its effectiveness and development. Wakayama Medical University International Round Table, 2014
 23. M. Oka, Study on prevention factors for suicide in the areas with low suicide rate in Kyoto, Japan. The World Association of Social Psychiatry Jubilee Congress, 2014
 24. 岡檀、プライマリケアと学術研究の連携、GIS の活用. 国立情報学研究所 「政策・意思決定支援科学プロジェクト」セミナー、2014
 25. 岡檀、山内慶太、日本の自殺希少地域における自殺予防因子の研究 京都府旧加悦町および周辺町村のコミュニティ特性比較から、第 33 回日本社会精神医学会、2014
 26. M. Oka, Study on Suicide Prevention Factors in Areas with Low Suicide Rates. The 3rd Research Forum on the Early Recognition and Management in Psychiatry, 2013
 27. M. Oka, Social capital and suicide in Japan; Study of the area with low suicide rates. Workshop and Visit for Academic knowledge Centers, Lund University 2013.
 28. M. Oka, The area with rare suicide incidence in Japan; the spiritual climate for anti-stigma. The 6th International Meeting of WPA Anti-stigma Section. 2013
 29. M. Oka, How do the geographical characteristics of municipalities influence suicide incidence in Japan? Transdisciplinary Research Integration Center. International Workshop on Information Systems for Social Innovation, 2013
 30. 岡檀、久保田貴文、椿広計、山内慶太、日本の自殺率上昇期における地域格差に関する考察～1973 年-2002 年全国市区町村自殺統計を用いて～. 日本行動計量学会第 46 回岡山地域部会、2013
 31. 岡檀、社会精神医学と質的心理学の対話 - 質的研究の可能性、第 32 回日本社会精神医学会、2013
 32. 岡檀、反町吉秀、阿部清幸、掛村香寿美、工藤智恵子、對馬真里、中島悦子、山内慶太、日本の自殺希少地域、青森県旧平館村の地域特性に関する研究. 第 37 回日本自殺予防学会、2013
 33. 岡檀、プライマリケアと学術研究

の連携、GIS の活用・統計数理研
究所リスク解析戦略研究センタ
ー 第3回自殺リスクに関する
研究会、2013

〔図書〕(計 2件)

1. 岡檀(分担執筆)「運動と自殺」、熊谷秋三編著、身体活動・座位行動の科学～疫学・分子生物学から探る健康～、杏林書院、2016
2. 岡檀(分担執筆)「自殺“希少”地域の調査から得られた気づき」、p268-276、本橋豊編著、よくわかる自殺対策 多分野連携と現場力でいのちを守る、株式会社ぎょうせい、2015

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡檀 (OKA, Mayumi)
和歌山県立医科大学保健看護学部 講師
研究者番号：10649247

(2)研究分担者

山内慶太 (YAMAUCHI, Keita)
慶應義塾大学看護医療学部 教授
研究者番号：60255552

(3)連携研究者

有田幹雄 (ARITA, Mikio)
研究者番号：40168018
和歌山県立医科大学保健看護学部 教授